

洋書輸入協会会報

VOL. 6

NO. 12

(通巻68号) 昭和47年12月

理事会報告

11月10日(金)

(イ) フランス Hachette 社 Mr. G. Hamon 出席。輸送問題、需要の問題を中心に活発に討議が行われた。

参考事項：最近において日本宛 Hachette 社から発送した出版物の量

1972年1月	3300kg
2月	7000
3月	5000
4月	3500
5月	4500
6月	6900
7月	3500
8月	8000

このデータに基づき保険料・郵送料の現行費用・所要日数と、コンテナ化した場合の数字との比較等を検討する。

(ロ) 英国の Accelerated Surface Post (ASP) について。(US成瀬氏)

現在の所英国のみの模様で詳細は未発表。

(ハ) 10月分収支計算、予算対比表検討。

洋書まつりの費用が予算20万円の所12～3万円で収まりそうである。

(ニ) 協会新年懇親会は1月8日(月)フレスクラブにて5時より開催の予定。

(ホ) 洋販渡辺氏の外遊印象披露。

(ヘ) 出版文化国際交流会の件。(福田氏)

来年10月に都立産業会館にて東京ブックフェアを開催する。

交流会々員にて行うこととする。

これに対し、JBIAの理事会としても必要事項を申入れておくこととする。

11月27日(月)

(一) 輸入ライセンスの件。

12月20日以降、自動承認制の物品につきILを届出制とし、簡素化を計ることとなった。

(通産省公報、No. 6908、昭和47年11月24日号参照)

(二) 「個人輸入に気をつけて。簡素化で事故もふえる。」日本経済新聞11月26日(日)朝刊記事参照。

(三) その他情報交換。

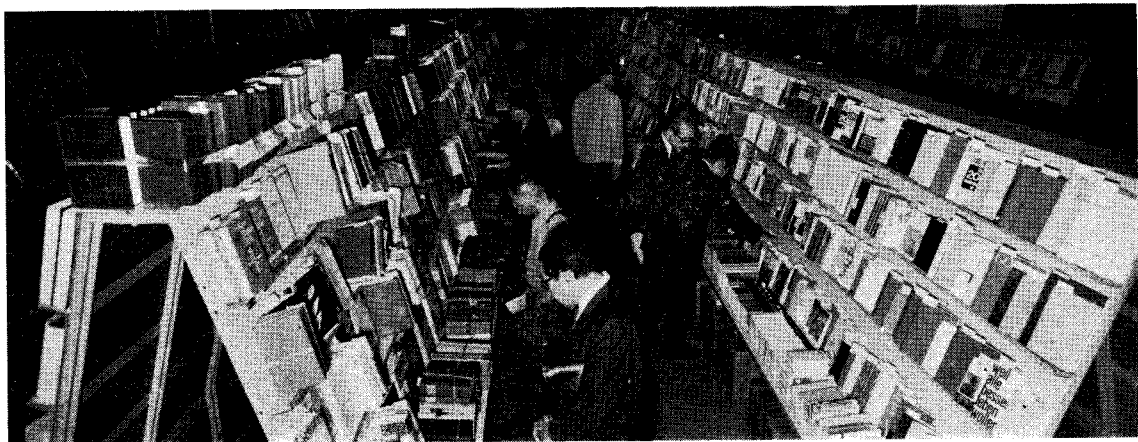
才五回洋書まつり

五回を重ねてきた洋書まつりの中で、今回ほど天候にめぐまれたことはなかったようです。10月13、14、15日（金土日）の三日間にわたって、晴天にめぐまれ、客足も終始しげく、全体としてまずは上々の売上げ、というよりも今までの記録を更新する売上げでした。例年ですと、第一日目の売上げがボンと高く、第二日、第三日と次第に尻つぼみになるのですが、今年は、三日間とも平均して一定水準の売上げを上げることができました。毎年のように顔を見せる人（客）たちの中では、「年々盛況になりすね」という意見と、反対に「今年はあまりよいものがありませんね」、という対照的な意見がきかれました。何分、合同セールの名にふさわしく、各社の出品方針が入りみだれているのですから、様々な意見が出てきたのも、もっともだと思います。

今年の特徴は、主として主催者側にありました。四回にわたって委員長をつとめてきた国際書房が、今回は女房役にまわり、代って新鋭の委員長、日本出版貿易（村山さん、補佐役として若い大橋さん）

が登場、慣れない仕事を見事にこなされました。また、フレッシュで芸術性の高いポスター作製を担当したトッハン（吉川さん）、ベテランの現場指揮関東書籍（高木さん）の合方をよくつとめた東亜ブックス（鶴さん）の新委員参加などがありますが、一方参加出品社の中に、今回初参加の会員及び準会員の方々もあり、同時にものなれた参加会員各社のご協力を頂いて、とにかく成功裡に終了することが出来ました。皆様のご協力を深く感謝しております。

回を重ねてきた“洋書まつり”は、一般客層の中に次第に定着化してきたのは事実だと思いますが、主催者側としては、各社の売上内容、出品上の問題あるいは会期、新しいアイデアなどについて、色々と検討すべき点があるようです。出品各社からのアンケートの返事などを基に、交換委員会としても近く行われる反省会で、具体的に検討されることと思います。いずれにしても、洋書輸入協会の秋の恒例行事として広く一般に定着してきた洋書まつりが、今後一層意味深いものになることを期待しています。（国際書房 田畑）



文化厚生委員会だより

第2回72会ゴルフコンペが11月17日都下八王子のGMG八王子ゴルフ場にて開催された。当日は11月とは思えぬ暖かい気候で快適に、紅葉を眺め乍ら

競技を終えた。結果は下記の通りであった。

- | | | |
|----|----------|-----------|
| 1位 | 桜井（伸興通商） | 102（36）68 |
| 2位 | 村山（ゲーテ） | 93（22）71 |
| 3位 | 大野（丸善） | 95（22）73 |

幹事記

“JAPANOLOGY,, —— 西 と 東

八 木 佐 吉

1853年鎖国日本の扉の鍵をたずさえたアメリカのペルリー艦隊が浦賀に来航したことにより、わが国は諸外国に対して閉じた扉を開かれてしまった。以来日本には急速な欧化（Westernization）が始められたのであるが、しかし、その西洋文明を受け入れる下地はすでにあったことがそれを可能にしたのである。たとえ全国民の中の極めて少数の人々ではあったが、すでにヨーロッパの言葉を身につけ、その学問を修めて、実用していた学者技術者達がいたのであった。

16世紀中期からのホルトガル（スペイン）との貿易とカトリック教の影響、17世紀以来のオランダとの交易を通じてのヨーロッパ諸文物の受け入れと共に、その医術、天文、数学など自然科学の諸学術をすでに学んでいたことが、開国以後のわが国の西欧化を容易にした基と思う。

日本の事情が、うっすらながら西洋に伝ったのは13世紀の末ごろマルコ・ポーロたちによるといわれている。その東亜での見聞が口伝え、写し伝えの時代を経て、やがて1477年ニュールンベルグで活版印刷本「東方見聞録」が刊行され、これはつづいてヨーロッパ数ヶ国語で出版された。これらには、日本には金銀珠玉が転がっているようなお伽噺的の記述がある。或いはそれだからこそ真に受けられて大航海時代の幕あけ頃のヨーロッパの冒険児達の注意をひき、遂にコロンブスを日本の代りにアメリカ大陸に導いたことは、すでに周知のことである。

やがて日本は16世紀初頭のワルドゼミューラー（Waldseemüller）やミュンスター（Münster）等のカルトグラフナーによって世界地図上にあやしげな

姿、想像図で現われてくる。まもなく、1542、3年ごろ最初のホルトガル人が種子島に漂着し、鉄砲・火薬などを伝える。つづいて1549年8月フランシスコ・ザビエル一行がカトリック教伝道の目的で渡来してきた。ザビエルは当時の万有知識の学問を修得した新知識人であった。この聖人たちの、その直接観察と経験とを記述した書翰等の文書が西洋人の「日本学」（Japanology）の始まりであるといっても間違いではあるまい。ザビエルはその通信文中に「異教徒の国民中で日本人に比し得べき者ありとは考えられぬ」と、また同行のトルレスは「私が彼等の中に見出される良き習性・徳操をすべて書こうと思うなら、インキと紙が尽きて了う」と書いているそうである。ヨーロッパ人による日本人観の嚆矢である。また同時に開始された日欧の交易によって、われ等の先祖はヨーロッパ文明を知り、その文物を移入して、西洋の事情風俗を解するようになった。

真を伝えたるや否やは、しばらく姑くとして、1596年刊の「法王グレゴリオ13世偉業録」（Compendio delle Heroiche, et Gloriose Attioni, et Santa Vita di Papa Greg. XIII. Roma, MDXCVI）には、安土その他の地にヨーロッパ風建築のカトリック・セミナリオが造られていたことを示す図が出ている。また衣服など日本人の日常生活にもヨーロッパ文化が喰い込んできたのである。日本に渡来した神父さん達の布教報告書翰に併せ記述されて、わが国の国状、風俗等日本研究記録がヨーロッパに確実に伝えられたことは今遺されている出版物や写本類で知ることができる。

アレッサンドロ・ワリニャーニ神父指導に係る

1582—1590年の九州三大名の遣欧少年使節による日欧間の文物・文明の交渉も注目すべき事である。この一行が将来したヨーロッパ式活版印刷機と活字用具等は、特に文化交流に貢献した。これによる出版物、いわゆる「日本キリシタン版」は、キリスト教聖人達の事蹟、イソップ物語など西欧文学をわが国に伝え、平家物語、和漢朗詠集などの日本・中国文学を西欧に伝えた。殊に日葡辞典(Vocabulario da Lingua de Iapam. 長崎1603—4年刊)の如きは、現在なおその中の語句が、著名な国語辞典「広辞苑」中にしばしば引例されているほどである。これらの日本キリシタン版(日本ヤソ会版)は今までに29種程が知られているが、その中の国字本、国語ローマ字本は桃山時代(文禄・慶長頃)の口語を伝える好個の資料で、当代の日本語を今に伝える文献である。

徳川幕府時代となり、キリスト教の禁教と鎖国時代に入る。オランダ商人(東印度会社)は、1630年代以後ヨーロッパ人を代表して日欧交易に当った。オランダ船は西欧や東南アジアの物品と共に、その本国の書籍をも船載して来て、わが国の蘭学者達に提供し、17世紀以降開国・明治維新に至るまでの蘭学興隆をうながした。またその間、商館長や蘭館医官として渡来してきたヨーロッパの学者達によって、わが国の洋学が進歩するとともに、日本がいろいろな角度から科学的に攻究され、また、その成果がヨーロッパ諸国語で刊行されてヨーロッパの「日本学」は段々と充実していく。その2、3を挙げれば、すなわち、ドイツ・レムゴウ生れの博物学者ケンペル(Engelbert Kämpfer)は1690年(元禄3年)オランダ医官として長崎に渡来し、2年間滞留し、兩度の江戸旅行で日本内地を視察研究した。帰国後、日本の歴史、政治、宗教、地理風俗、動植物、産業等を詳細に記述した。まず「廻国奇談」(Amoenitatum exoticarum……Lemgo, 1712)が

出版され、死後英訳「日本誌」(The History of Japan……London, 1727)が刊行された。これらはまた、つづいてヨーロッパ諸国語に翻訳出版されたのである。ケンペルはそれらの中で、日本の製紙法や鍼灸術を伝えている。現今、中国の鍼術がわが国でとりざたされ始めたが、これは、すでに18世紀の初期にケンペルに依って灸点法とともに、日本からヨーロッパに紹介されているのである。また、日本人作製の日本地図を持ち帰り、複製紹介している。それに依って16世紀以来180年間ヨーロッパのカルトグラファー達によって、様々な形に図刻、時には甚だ奇形に表現されていた日本全国の図形が、やや正確に西洋にもたらされたことであった。

1775年(安永4年)来朝のスウェーデン人ツンベルグ(Carl Peter Thunberg)は植物学者リンネの高弟。蘭医として蘭館長の江戸参府に加わり、わが国医師等と交歓して、当時のわが国の医学、博物学の発達に寄与するところ多かった。のち著書「日本植物誌」(Flora Japonica. Leipzig, 1784)、「旅行記」(Resa uti Europa, Africa, Asia. Upsala, 1788—93)等を出版して、日本事情の紹介につくした。

19世紀以降今日に至る間の最大最高の西洋への日本紹介者はドイツ人シーボルト(Philipp Franz von Siebold)である。シーボルトは1823年8月(文政6年)蘭医として長崎に上陸、以来1829年12月までの長期間の滞日であった。その頃わが国の西洋医学(蘭方医)は正に軌道に乗らんとしていた時で、洋学受入れの機運は熟していた。鳴滝塾で西洋医学と一般科学を多数の門人等に教え、また、有能な門弟達に研究課題を授けて、蘭文の論文を提出させたりして、日本に関する万般の研究資料を集めた。それは当時の幕府の禁制を犯してまでの熱心さであった。帰国後出版の大著「日本」(Nippon, Archiv zur Beschreibung von Japan, ……Leiden, 1832—52)は、高野長英、伊藤圭介、高良斎等多数の門弟達の

論稿を含み、日本学の百科事典の観がある。真にシーボルトは一方では日本における洋学の輓推到大なる貢献を為し、一方にはわが国を研究、西洋に紹介し、欧米人に始めて日本の万般の真相を知らしめた。その功績は永く消えないであろう。

その他18世紀前期から中期にかけての欧人の日本研究文献は数多い。更に開国後明治時代に入れば、サトー (Ernest M. Satow)、アストン (William G. Aston)、チエンパレン (Basil Hall Chamberlain)、ベルツ (Erwin von Bälz)、ヘボン (James C. Hepburn)、グリフィス (William E. Griffis) 等が日本アジア協会 (Asiatic Soc. of Japan) やドイツ東亜自然及民俗研究会 (Deutsche Gesll. F. Natur- u. Volkerkunde Ost-Asien) 等を組織して日本研究に徹底された。また、ハーン (Lafcadio Hearn)、モラエス (Wenceslau de Moraes)、フェノローサ (Ernest Fr. Fenollosa)、エリセーエフ (Serge Elisseeff)、ライシヤウアー父子 (August K. & Edwin O. Reischauer)、サンソム (George B. Sansom) 等の名も日本研究紹介者として逸することはできない。

また日本人の洋行者も漸時増加して、直接またはそれらの欧文著書によって日本の思想や諸々の事情を海外に伝えたことも見逃がせない。森有礼、南条文雄、新渡戸稲造、岡倉覚三、玉井喜作、野口英世、野口米次郎等、最近では鈴木大拙など多くの有能な文化人達が、達意の欧文で著述せられた日本関係の文献、あるいはその研究論文は多数にのぼる。

しかし、最近での日本人書きおろしの外国語、殊に欧文の著述は比較的少い。あらゆる観点からの日本研究、または母国紹介の記述がわれわれ日本人の手でなされ、外国語で出版されることを望みたい。殊に科学書が多くなることを。が、しかし、現状は如何か。一例として Books of Japan, 1972-73 (日本出版貿易会社目録) によって分類し、大雑把

な割合を作ってみた。

美術・伝統工芸 活花・折紙・料理	35%
語学	15%
自然科学	10%
スポーツ	10%
文学	8%
地歴・案内書	8%
社会科学 哲学}	7%
児童物	3%
その他	

という結果である。美術ものの従来から依然として多いのに対し、医学・科学もの、思想的思索的著書が過小である。これを洋書の日本レフrint版の傾向と比較してみよう。(但し、これは日本研究書のみではない)。出版社22社、点数約1,500の authorized edition のみである。(1972 Reprint トップアン刊目録による)

自然科学・医学	35%
工学工業・建築	23%
社会科学・商業	14%
数学・統計	13%
語学・文学	9%
哲学・宗教 教育}	5%
地歴・その他 雑	1%

という割合で前者と全く対照的であることを注したい。

いづれにしても、現在のところ、日本研究の外国語文献は、日本人達の著書よりも、外国人、殊に欧米人の筆に成るものが圧倒的に多い。このことは15世紀にマルコ・ポーロの「東方見聞録」が出版された以来変らない現象である。これは日本人にとって、外国語での物書きが如何に難かしいものであるかを、如実に語っているのである。

随 想

法政大学教授 金 丸 十 三 男

今秋は空前の結婚ブームだそうである。昭和22年前後のベビー・ブームの当然の結果なのであろう。それはそれで結構なことである。ただ……、いや、これから先はいささか気のひける思いもするが、恍惚はまだ遠いとしても、そろそろ初老にさしかかった男の、いわゆるヤングへのヤキモチの弁と受取られても仕方あるまいが、「肩のこらないものでよい」という仰せに甘えて一筆するわけである。

他でもない、「見合」復活について、なのである。とは云っても、全く専門外の私はここに正確な統計などを用意しているわけではなく、折にふれて読む新聞雑誌の関係記事からの印象でものを云うわけで、まあ、大へん無責任な発言なのだが、そこは、「肩のこらない」でお赦し願う他はない。

「見合復活」と云っても、見合そのものの復活というよりは、「見合」という言葉を、当事者も第三者も、比較的平気で口にするようになった、という意味である。恐らく、見合という行動そのものは以前——というのは、戦後の一時期をさすのだが——とさして増減はあるまいと思われるが、以前に比べて声高になってきたような気がするのである。

勿論、「以前」とか何とか云っても、それは私自身の体験を基準にしているので、私自身が結婚の適令期であった昭和10年代、殊にその後半を念頭においてものを云っているわけで、それより以前の、戦争中、戦争前は、むしろ見合結婚の方が多かったろうと思われる。そしてその見合そのものも、明治以前の特に武家の間では普通であった家長間の取り決めによる結婚に比べれば、遂かに本人たちの意向を

重んじたものであったことは容易に察せられる。然し、それにしても、第三者の媒介によらない、本人たちだけの交際から始まる結婚、いわゆる「恋愛結婚」——どうも、余り適当な用語とは思えないが——が普通になり、むしろこれこそあるべき姿の結婚と広く主張されるようになったのは、やはり、戦後のことであろう。新憲法も、新民法もそれを反映し、またそれに拍車をかけたし、占領軍も熱心であった。もっとも、この形の結婚が一番人情に自然なものであることは、憲法や民法に書かれなくても、アメリカさんに教えられなくても、人間なら誰でも理解できることだから、当り前のことではあったが、

とにかく戦後は、猫も杓子も「恋愛結婚」であったが、勿論この現象はこれだけのものであったのではなく、性の解放、男女平等、民主主義、「家」からの解放、その他もろもろの解放や自由とともに叫ばれ、実行されたことは周知の通りである。そしてそれらはそれなりに戦後の日本の基礎になったことも周知の通りである。だから、私などの適令期の頃は、見合という言葉は口にするのさえ古臭くて恥ずかしいというような気がしたもののである。いや、見合などということは、家長どもが家族制度を存続させようがためにその子女に強いる封建的行為ないし儀式であり、「婚姻は、両性の合意にのみ基づいて成立」するという、新憲法第24条を踏みにじるもので、断固反対し、打倒しなければならない、と私などは思い込んでいたのである。（事実、私の親類の一人は、ある女性との見合を要求し、「断わるなら、親類としての交際を断つ」と云って来たので、その

まま絶交の状態となっている)

勿論、先程も云ったように、見合そのものは、恐らく、戦前、戦中と比べてひどく増減があったとは考えられないが、それにしても見合の影は薄く、声は小さかったと思う。要するに見合は気がひけたのである

それが、最近、ふと気がついてみると、「見合」は大手を振って横行し、声も高いらしい。一体、いつ頃からこうなったのだろうか？ どうしてなのだろうか？ どうも様子がおかしいのである。面妖なのである。

ここで思い当ることがある。つい最近、新刊で読んだことである。総理府だかの調査によると、ごく最近の若夫婦や若主婦候補者たちは、自分たちだけのいわゆる「核家族」よりは、親と同居をむしろ望む者が多いのだそうである。老人の知恵を利用できるから、ということらしい。然し、これと見合と結びつけてみる。見合して、結婚して、親と一緒に住む……なんだ、昔と同じじゃないか……と私は呆然となってしまう。戦後、俺たちが、両性の自由意志だけに基づく結婚を主張し、実行し、経済的にはかえって負担が大きくても親と別居して（扶養は続けているのである）、半封建的な家族制度を拒否してきたのに、そしてそのことによって戦後の民主主義を幾らかでも支えてきた積りなのに、それなのに、あ、それなのに、俺たちの後継者たちは、こんなにも脆くも、再び戦中、戦前の日本に戻ろうとするのか。ま、大げさに云うなら、ついそうした慨歎にふけてしまう。

まだ思い当ることはある。やはり最近の新聞記事によると、当節のヤングたちは、今の世の中に結構満足しているらしい。適当に仕事をし、マイホームをほどほどに大事にし、かつ日常生活も何とかエン

ジョイして、平凡に、平凡に生きたい、というのらしい。それは明らかに現状肯定を前提にしなければ出て来ない考え方だし、事実、現状で満足という答えがかなりあるらしい。更にこれに関連してであるが、明日は、総選挙の告示があるわけだが、最近はいく代が政治に無関心で棄権が多いと云う。それについて、保守党のある代議士は、「棄権は現状肯定だ」と云ったそうだが、確かに一理あると思う。投票しない限り変更はあり得ないのだから。

それにしても、こんな世の中で現状維持なんて、と私はここでも切齒扼腕するのである。「日本も、まあ、いいじゃない」なんてよくも云えるもんだ、君の家で一人でも「恍惚の人」が出てみろ、長患いの病人が一人でも出てみろ、今の日本ではもうそれでアウトだ、貧困や心中の自由こそあれ、「健康にして、文化的な」生活への保障のない逆立ちのこの世の中でよくまあ現状維持です、満足です、などと云えるものだ、とまあ、つつい毒づきたくなるのである。これもあれも、昭和と同じ年令の一人の男のヤングたちへのヤキモチ、いや、ひよっとすると、自分でこそ気がつかないが、やはり、これも恍惚現象の一つかも知れん、という不安も湧いてくる。恐ろしいことだ。

見合結婚、親と同居、政治的無関心＝現状肯定、まるで三題噺だが、何だか背筋が寒くなるのである。戦後20何年かの我々のささやかな努力も、やがて無に帰しはしないだろうか、いや、あるいは、その「ささやかな努力」そのものがこんな事態を生み出したのだろうか？——少し肩がこって来た、こんな積りではなかったのだが、つい……。どれ、ウルトラ・ヤングのうちの娘に肩でも揉んで貰おうか。いくら取られるだろう？ (1972・11・19)

- 11月2日ナウカ株式会社とメジ・クニーが主催の「ソ連の本展」オーフニング・パーティーがパレス・サイド9階のアラスカで盛大に開かれた。
- 11月7日訪日中の Hutchinson Group の Rudkin 氏のためにブリティッシュ・カウンシルでパーティーがひらかれた。
- John Wiley の Mr. Robert B. Ellis 11月中旬来日。
- Hachette International の極東代表 Mr. Gérard Hamon 11月上旬来日。
- Princeton Univ. Press の Director, Mr. Herbert S. Bailey, Jr. 11月中旬来日。
- Australian National Univ. Press の Director, Mr. W. A. Wood 11月中旬来日。
- Oxford Univ. Press の極東総支配人 Mr. R. E. Brammah 11月中旬来日。
- Oceana Publications の Mr. Philip F. Cohen 11月中旬来日。
- Faber Music の Sales Manager, Mr. Martine Kingsbury 11月上旬来日。
- Associated Book Publishers の Mr. J. Spragg 11月中旬来日。
- David & Charles の会長 Mr. David St. John Thomas 11月下旬来日。

外国出版社の紹介 No. 14

Librairie Hachette

Hachette 社はフランス書籍取次店の大手として広く知られているが、その歴史は古く、1826年に書籍の出版を目的として設立された。文学、歴史、児童書、旅行案内、美術などの各分野に手を広げて行ったが、その後約20年間に多くの専門出版社を吸収して、定期刊行物を含めて今日では Hachette Group という国際的な企業に成長した。

現在出版書として知られているのは、わが国でもよく使われている Mauger のフランス語教科書や、美術書、絵本、児童書のほか、英国の E. Benn 社で出版している英語版 Blue Book の原書 “Les Guides Bleus” などである。

Hachette の組織は非常に大きく、Book Division, Press Division, National Distribution Division としてわれわれに最も関係の深い The Hachette International Division がある。現在海外への輸出を担当しているのはこの国際部で、今日のフランス書籍業界で重要な地位を占めていることは、同社の1971年における輸出高が、フランス全出版物輸出の43%に達していることから容易に理解できよう。国際部だけで420余人の従業員がおり、29か国の支社を合計すると1,454名のスタッフを擁している。

Hachette Group の中には視聴覚教材、マイクロフォームの開発を行っている部門もあり、最近では教育用のビデオカセットも発売されている。

資本金82,250,000フラン。社長は Ithier de Roquemaurel 氏、国際部の極東代表は本年11月に来日されたGérard Hamon 氏である。Hamon氏の話によれば、フランスの書籍業者は一般的に地味で、保守的で、特に英語文化圏に対しては消極的であるが、同社は例外的に輸出に力を入れているとのことである。また現在パリ郊外に新社屋を建築中で、完成すれば国際部も移転する模様である。

通 関 統 計

外国貿易概況（大蔵省関税局編、日本関税協会発行）1972年8月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和47年8月 \$6,229,000 1月以降累計 \$40,491,000

昭和46年8月 \$2,699,000 " \$15,010,000

（註）昭和47年1月より、郵便物による通関分を含むようになったため前年比が急激に上昇している。

お 知 ら せ

昭和48年1月1日より、住居表示の変更が実施され次の通り変わりますので、お手許の名簿等のご訂正願います。

洋書輸入協会 中央区日本橋1-20-3

（株）紀伊國屋書店 新宿区新宿3-17-7

丸 善 （株） 中央区日本橋2-3-10

（株）東光堂書店 中央区日本橋1-7-6

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

（株）医学書院 ☎ 814-5931

Futura Publishing Co. Inc., Mount Kisco, N. Y.,

U. S. A.

All Publications

Warren H. Green, Inc.

Bunce, D. F. M.: Atlas of Arterial Histology.

250 pp. 120 figs. 1973 3月出版予定 約 ¥5,400

Fagarasaun, I. & Heimlich, H.: Surgery of the Liver and Intrahepatic Bile Duct.

400 pp. 232 figs. 1972 12月出版予定 約 ¥7,200

Gibbs, R. C.: Skin Diseases of the Feet.

368 pp. 100 figs. 1973 2月出版予定 約 ¥4,500

Nuzzolo, L. & Vellucci, A.: Tissue Culture Techniques.

284 pp. 110 figs. 1973 3月出版予定 約 ¥5,220

会 員 紹 介

株式会社 ト ヲ ヲ （準会員）

表 代 者 美 堅 四 郎

現代表取締役の美堅四郎氏が1971年8月大阪市東区南久太郎町に同社を設立、同年12月に東京営業所、1972年5月に一宮営業所、9月に京都営業所をそれぞれ開設し、現在に至っている。

ファッション産業が台頭している今日、より迅速に、よりの確な繊維デザイン資料とファッション情報を提供することによって、繊維産業の発展に貢献し日本の服飾文化の興隆に寄与することを根本理念として、設立した企業です。

主たる販売先が繊維産業界で、原糸メーカー、繊維商社、服地卸商、織物業者、縫製業者専門店であるから、専門知識を身につけたベテランのセールス・マンがコンサルタント的役割をしながら営業活動をしているのが業績を伸ばしている一因です。

取り扱い商品は、欧米の流行繊維生地見本帳、ファッション雑誌、色彩関係資料、欧米のプリント・デザイン、ファッション関係情報です。

- Wright, J. W. & Taylor, C. C.: Polytomography of the Temporal Bone.
244 pp. 160 figs. 1973 3月出版予定 約 ¥5,940
- S. Karger AG.
Maratka, Z. & Setka, J.: Urgent Endoscopy of Digestive and Abdominal Diseases: International Symposium, Prague & Carlsbad. 1971
308 pp. 122 figs. 1972 ¥13,020
- The C. V. Mosby Company
McKusick, V. A.: Heritable Disorders of Connective Tissue.
739 pp. with figs. 4th ed. 1972 12月出版予定 約 ¥10,620
- Nort-Holland/Elsevier/Excerpta
Zuckerman, A. J.: Hepatitis-Associated Antigen and Viruses.
240 pp. 40 figs. 1972 ¥7,200
- Springer Verlag
Reulen H. J. & Schuermann. K.: Steroids and Brain Edema.
350 pp. 150 figs. 1972 12月出版予定 約 ¥4,370
- Georg Thieme Verlag
Kluthe, R. et al.: Uremia; International Conference.
320 pp. 178 figs. 1972 12月出版予定 約 ¥6,210
- (株) 丸 善 272-7211
Cornmarket Reprints Ltd., London
Chaucer, G.- The Canterbury Tales. Reprinted from William Caxton's Edition of 1484. 624 p.
The Collectors Edition. ca ¥77,250
The Library Edition. Pre-Pub. ca ¥19,630
Regular ca ¥22,960
- Springer-V.
Bessis, M.- Living Blood Cells and their Ultrastructure.
ca 640 p. Pre-Pub. ca ¥14,490
Regular ca ¥17,370
- Lea & Febiger
Porter, K. R. and M. A. Benneville.- Fine Structure of Cells and Tissues. 4th ed in. in prep.
- St. James Press, London
Contemporary Writers of the English Language.
Ed. J. Vinson.
Vol. 1: Contemporary Poets. '71. xx, 1243 p. ca ¥8,760
2: Contemporary Novelists. '72. xviii, 1450 p. ca ¥9,270
3: Contemporary Dramatists. '73. ca ¥9,270
- S. Karger
Pharmacology and the Future of Man: Proceedings of the 5th International Congress on Pharmacology, San Francisco, July 1972.
Ed. by G. H. Acheson. 5 Vols. set ca ¥37,480
- Macmillan Journal, London
NATURE. Japan Special Issue. November 24, 1972. ca ¥650
- J. B. Lippincott Co.
The United States Dispensatory and Physician's Pharmacology. Ed. by A. Osol and others.
27th ed. ca 1,200 p. in prep.
- North-Holland
Lima-de-Faria, A. (ed.)- Handbook of Molecular Cytology. (Frontiers of Biology, Vol. 15) ca ¥14,400

(株) 南 江 堂	☎ 811-7234	Surgery. Vol. 5 1973	in prep.
Year Book Medical Publisher, Chicago		Williams & Wilkins Co., Baltimore	
Caffey, J.: Pediatric X-Ray Diagnosis, 6th		Clinical Neurosurgery. Vol. 19 1972	¥9,360
ed. 1972 (in 2 vols)	ca. ¥23,400	Georg Thieme Verlag Stuttgart	
J. B. Lippincott Co., Philadelphia		Janzen, R. & W. D. Keidel et al.: Pain—Basic	
Depalma A. F.: Surgery of the Shoulder,		Principles, Pharmacology, Therapy.	
2nd ed. 1972	¥12,240	1972	¥6,670
Thorlk, P.: Atlas of Surgical Techniques.		Chapchal, G.: Arthroplasty of the Hip.	
1970	¥7,920	1973	ca. ¥8,050
Blackwell Scientific Publications, London		Butterworth Group. London	
Cleland, W. & J. Goodwin et al.: Medical and		Sutton, N. G.: Injuries of the Spinal Cord.	
Surgical Cardiology. 1969	¥11,330	1972	¥5,660
Gough, M. H. & M. W. L. Gear: The Plain		Munksgaard, Copenhagen	
X-Ray in the Diagnosis of the Acute		Histocompatibility Testing 1973	ca. ¥9,720
Abdomen. 1971	¥3,600	Transplantation Reviews. 全巻	
Edward Arnold Ltd., London		Series Haematologica. 全巻	
Gardner, D. L.: Pathology of the Rheumatoid		(株)ユー・エス・エシアテック カンパニー	
Arthritis. 1972	¥10,300	☎ 502-6471	
Kinmonth, J. B.: The Lymphatics. 1972	¥12,870	Engineering Sciences Data Unit Ltd.	
Milne, J. A.: An Introduction to the Diagnostic		All Publications	
Histopathology of the Skin. 1972	¥9,270	Gordon and Breach Science Publishers Ltd.	
Churchill Livingstone, Edinburgh		Intra-Science Chemistry Reports	¥11,480
Blackwood, W.: Atlas of Neuropathology.		The International Journal of Sulfur	
2nd ed. 1970	¥2,830	Chemistry Part A, B & C	¥21,300
Dacie, J. V. & S. M. Lewis Practical		Bibliographies of Chemists	¥14,600
Haematology. 4th ed. 1970	¥3,090	International Journal of Polymeric	
Moseley, H. F.: Shoulder Lesions. 3rd ed.		Materials	¥19,270
1969	¥12,360	Polymer News	¥11,480
Grune & Stratton, New York		The Journal of Adhesion	¥19,270
Popper, H.: Progress in Liver Diseases. Vol. 4		International Food Information Service	
1972	ca. ¥12,600	Food Science and Technology Abstracts	¥110,000
S. Karger AG, Basel		Information Resources Press	
Krayenbuhl, H.: Progress in Neurological		Cancer Chemotherapy Abstracts	¥8,400

フランス出版物の新しい目録のお知らせ

“French Books in Print 1972年版”

が入荷いたしました

RÉPERTOIRE DES LIVRES DISPONIBLES 1972

“French Books In Print”

全2巻 約2,600頁

¥35,000

現在まで出版目録として多くの秀れたreferenceがありましたが、それらは、フランス語出版物の最新の基礎的なreferenceとしてのFrench Books in Printの役割を果たしてはいませんでした。今度発行されるこの新しい出版目録は既に出版されている英米のBooks in Printと真に比肩しうるフランスで最初のものでその刊行が長く待たれていたものです。

French Books in Printの第一版にはフランス、ベルギー、スイス、カナダその他のフランス語で出版された約12万タイトルが収録されています。見出しと引照 (Cross-reference) は簡明な情報を提供し、調査、発註の際の重複やミスを防ぐべく周到に編集されています。

この出版目録のためにつくられたデータバンクはコンピュータ化され、フランスにおけるこの種の最初のもので、さらに毎年新版を発行するために常にup-to-date になるよう充実されています。この第1版には1971年末までに出版されたものまでを収録しています。

* French Books in Print は今日のフランス語出版物について簡潔で明確な基本的データを提供します。

※利用者は約12万のタイトルについて次の項目を知ることができます。

著者、編者、書名、サブタイトル、序文および後記者、翻案者、注釈者、翻訳者
図版の有無、シリーズ名、体裁、頁数、発行年度、発行者(出版社)、版数、
発行地、価格、販売制限、教師用テキストの有無、その他。

日本総代理店



三洋出版貿易株式会社

本社 東京都中央区日本橋茅場町1-5-10 Tel. (669)3761

営業所 大阪・京都・新居浜

昭和47年12月 通巻第68号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329